



2022.4.

No.47

「日の出の森・支える会」は、東京都西多摩郡日の出町にある巨大な処分場が引き起こした環境汚染から、自分たちの生命・健康を守るとともに、ごみ問題の真の解決を願って立ち上がった地元住民運動を支援することを目的として、1994年に発足しました。

災害に備えて手押しポンプを

瀬戸昌之(支える会代表)

地球温暖化が進むと洪水害が激化するようである。

森林や水田が消滅すると下流の都市は洪水に脆弱になる。このことは用水確保も脆弱になることを意味する。さらに、巨大地震などの災害は配管などの破壊をつうじて、水の利用を長期にわたって困難にする。そこで、立川市の有志が以下のような対応を市に申し入れた。

災害時の水確保のために、避難所に指定される予定の小中学校の運動場の隅に手押しポンプを設置する陳情を行った(2021年12月9日)。以下はこれをめぐる立川市議会の発言と傍聴した瀬戸のつぶやきである。

1. 議会「手押しポンプ設置には途方もなく高額の予算がいる」vs 瀬戸のつぶやき「給水車1台の設置予算で全小中学校に設置できる。これが途方もなく高額か？」

2. 議会「立川市の北の農業地域には使える井戸があるからこれを借りたら？」vs 瀬戸「被

災者がたとえば2~4km離れた井戸まで水を汲みに行けるか？」

3. 議会「1人1日の生活用水使用量は10~20ℓであるから、学校のプールなどの水を使えば避難者の11日分の水は確保されている」vs 瀬戸「誤認と恐ろしい提案で絶句した」

こんなやり取りで「継続審議」となった。

市は小中学校を災害時の避難所にする予定である。避難所と指定するなら、手押しのポンプ設置は市民の提案のまえに市がやるべきことではないのか。市民の提案の後ですら手押しポンプ設置の意義が理解できないほど災害に対する市の危機感・見識は低いといわざるを得ない。

災害対応だけでなく、われわれはどのような社会をつくろうとしているのか。安心安全とは何か、何を準備すべきか。これらを行政に期待する前に、「支える会」も市民もリーダーシップをとるべきではないのか。

【連絡先】 〒190-0011 東京都立川市高松町 2-19-1
ホームページ : <http://hinodenomori.main.jp>

Tel/Fax 042-523-7297

E-mail : hinodenomori@tokyo.email.ne.jp